２０２６年１１月２０日
日 本 銀 行 大 阪 支 店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

輸出や生産は、緩やかに増加している。設備投資は、増加している。個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに増加している。住宅投資、公共投資は、横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境をみると、緩やかに改善している。

先行きについては、今後の中東情勢やグローバルなＡＩ関連需要の動向が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各　論】

１．需要項目別動向

公共投資は、横ばい圏内で推移している。

輸出は、緩やかに増加している。

設備投資は、増加している。

個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに増加している。

百貨店販売額は、高水準で推移している。スーパー等販売額、家電販売額、乗用車販売は、横ばい圏内で推移している。外食売上高は、増加している。旅行取扱額は、横ばい圏内で推移している。

住宅投資は、横ばい圏内で推移している。

２．生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。

内訳をみると、鉄鋼・非鉄金属などの一部業種に弱めの動きがみられているものの、生産用機械は堅調に推移しているほか、電気・情報通信機械は緩やかに増加している。

３．雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、緩やかに改善している。

４．物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、２％程度のプラスとなっている。

５．企業倒産

企業倒産は、概ね横ばいとなっている。

６．金融情勢

預金残高は、企業収益の改善に伴う法人預金の増加や、雇用・所得環境の緩やかな改善に伴う個人預金の増加から、前年を上回っている。

貸出残高は、設備資金需要のほか、経済活動の改善や各種コスト高に伴う運転資金需要を背景に、前年を上回っている。

預金金利は、緩やかに上昇している。

貸出金利は、緩やかに上昇している。

以　上